

ヨーロッパ史特論Ⅱ

2単位 3年(後期)

長井 伸仁・准教授/人間文化学科

【授業目的】 19・20世紀フランスの宗教と宗教的現象について考察する。

【授業概要】 宗教は、近代化が進むにつれて衰退・消滅に向かうわけでは必ずしもない。むしろ、その位置づけや変容をみることで、近代史をより深く理解することが可能になると考えられる。講義では、宗教を中心に据えてフランス近世・近代史をたどり直してみたい。

【キーワード】 史学

【先行科目】 『ヨーロッパ歴史・社会論Ⅱ』(1.0)

【到達目標】 近現代フランスの政治・社会の基本的な特徴を理解すること

【授業計画】

1. 問題の所在
2. 宗教改革
3. 啓蒙思想
4. フランス革命と宗教
5. 19世紀の諸体制と宗教
6. 政教分離
7. 宗教の変容

【成績評価】 平常点(授業への取り組みなど)と期末テストもしくはレポートの得点をもとに評価する。

【再試験】 なし

【教科書】 【参考書】 谷川稔、渡辺和行編『近代フランスの歴史』 ミネルヴァ書房、2006年

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=219082>

【連絡先】

⇒ 長井 (3116-2,) (オフィスアワー: 月曜11時50分-12時50分)

【備考】 この授業は隔年開講であり、平成24年度開講